

日本GAP横浜支部報
oneness

創刊号

oneness 1

ONENESS万物一体	清水 正	1
U F Oを目撃して	中川美子	2
夜明けは足元から来る	田中太朗	3
失敗は成功のもと	岸本 悟	4
戸隠高原の旅	元井武士	5
アダムスキー全集を読んで	米永紀子	6
宇宙哲学から学んだ事	井川博文	7
今日も雨かな	藤村雅夫	8
仕事は遊びのように遊びは仕事のように	山木益巳	9
U F O体験とG A P	青木雅孝	10
自然の循環	村田周一	13
U F O観測会御案内		14
金星の大气	石田義雄	15

表紙の写真は富士山上空のU F O 井川博文氏撮影

oneness 万物一体



清水 正

私たちは地球という惑星に生まれ、この世界で目的を持って生涯を過ごすことにはまちがいないと思います。

しかし、つい目的を見失ったり、なんとなく過ごしたりしてしまう人間の怠惰さを感じたり、人間関係で悩んだりしていませんか？ そんな時にこそアダムスキー哲学が必要となってくるんですが、その時の気分には左右されたりしていませんか？

横浜支部月例会ではそんな人間の部分を日常の普通の体験から話し合いをしています。特に人間関係とかで腹立たいし事があつたらどうするかといった問題とか、みんなどうまくやるにはどうするかといったことなどは誰もが対面する問題としてとりあげています。

1 私たちが地球上でうちあたる諸問題は私たちが自身が引き起こした原因による所が大きいと思われまます。それらは過去から築き上げてきた結果ですが、こうした問題解決をする手だてをアダムスキー氏

は教えています。つまり、これまで心が主導してきた生活をもっと「宇宙の意識」と一体となつてなされなければならぬというものです。

具体的には「超能力開発法」「生命の科学」等に載っているわけですが、肉体にある触感を越えてさらに深い所にある触覚からの経路に心を向ける。想念と感情をコントロールして非個人的になることが大切であることを述べています。

そしてアダムスキー氏は大自然を観察して、そこには分離はなく、お互いが密接な関係を持つことと、材料となる分子原子は永遠に利用されることを発見し、本来万物は一体であることを強く主張しました。

アダムスキー氏は自然の観察から次のようなことを述べています。「自然の驚愕を観察すればするほど自分が万物と一体であることを私はますます深く感じました。生けるものすべてが同じ空気を呼吸しており、すべてが同じ太陽や風の祝福を楽しんでいるのであって、すべてがただ一つの根源によって生かされているのです。実際差別というものは存在しません。万物は同じ「自然の法則」のもとに創られたのです」「万物の中にけつして分裂による断絶のないたまなき融合を私は見出ししました。したがって私は孤立することができず、むしろ万物と一体だったのです」(超能力開発法)

私たちにとって本来当然のことでもあるのですが、万物一体感のフィーリングを高め強めていくことが大切なことではないでしょうか。横浜支部報「ONENESS」

ES「もこの視点で追っていきたいと願うこの題名としました。

さて、人間だけに限らず万物には共通の認識があると私は考えます。痛い、うれしい、元氣、他にたくさんあると思いますが、こうした認識は宇宙の基本的なフィーリングではないでしょうか。いつもこうした共通の認識に根ざして感じ合えることができれば、万人や万物がしてほしいこととしてほしくないことがわかり調和すると思うのです。

わかりやすく言えば同情心です。「第二惑星からの地球訪問者」の中でスペースラザーズの地球人に対する態度はまさに同情に満ちたものでした。「超能力開発法」の中で次のように述べています。

「あなたに与えているのと同じ、神の生命の息」によって万物が生かされていることを自覚しながら、慈悲深い理解を持つて自然を見なさい。この「息」の中に「大宇宙」の刺激的な「力」が含まれているからです。形ある物にその目的を遂行する能力を与えているのは万物をつらぬいている一つの「力」なのです。

したがって分裂というものは存在しないことがわかります。万物と一体であることを正直に感じるまで努力をしなければなりません。同情に満ちた感覚こそ伝達の経路であるからです。

万物がもつ基本的な共通の認識は他でもない一体性を表わしていると思えます。一つの根源なる認識ですべてが一致してこれが実は「宇宙の意識」そのものであると私は感じました。

久保田先生が述べられた「宇宙の意識は絶対善」はGAP内ではかなり話題になり、これを中心とした話し合いはそのつど長い時間なされました。

Uコン110号の中では絶対善としての「宇宙の意識」を説明しています。以下同号からの抜粋です。

「この「宇宙の意識」というものは善悪を超越したもので、しかも万物を生成させる原動力ですから「絶対善」とも言うべきものです。

これが万物を存在せしめているからには、万人と万物は「絶対善」です。悪というものは存在しません。

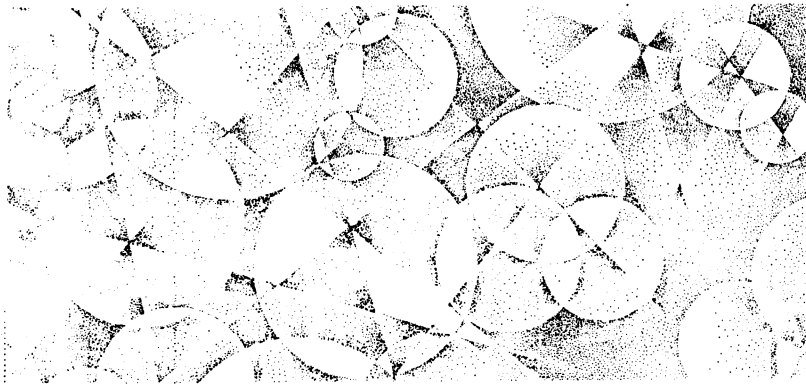
ここで重要な問題を持ち出しますと、地球人の最大の欠陥は「善悪」の二元論を持つことにあるのです。万物を善と悪に分けて見るというのは地球人最大の欠陥であつて、このために地球の文明は精神的に容易に発展しないのですが、数千年もたてば地球の万人が善のみしか考えないようになるでしょう。」

「宇宙の意識」はおそらく悪など無しにしてしまうような大きな善なのでしょう。悪は理解の欠乏でしょうし、悪を評価する現在の私たちは原因と結果を深くほりさける必要があります。

「万物一体」この永遠のテーマに私たちはたち向かっています。

これをフィーリングで実感したアダムスキー氏の言葉は次のようなものでした。「一つだ。すべてが一つなのだ。どこもかしこも！ 分離はない！」

(第二惑星からの訪問者 偉大な指導者との再会)



近づくにつれて、各々一つに見えていた光は全後左右の三、四ヶ所から出ている事がわかりました。それにしてもとんでもない低さなのです。とんでもない低さで一直線にこちらに向かってくる。頭上より約40度前方まで来た時、一瞬その姿がはっきりと見えました。何と円盤です！

初めからそんな事まで期待していませんでしたので、突然と金色の物体が音もなく頭上を通過するのを見送っていました。二機は左右に連なり、上下にやや重なる様に飛んでいました。その内の一機のボディーだけが一瞬見えたのです。時刻は七時過ぎあたりはかなり暗いのですが、UFO自身が発する光や他の建物の明かりで船体は良く見えました。真ちゅうのような金色の地色の周囲を、焦げ茶色にいぶした様な色をしていて、表面はツツヤ光っています。形はほぼアダムスキー型に似ていますが、写真で見える物よりも円盤の周囲に厚みを感じられます。パンピザの縁のような具合です。円の下部中央は少しふくらみがあって、両サイドと中央あたりの三、四ヶ所からかなり強い赤や緑の光を出しています。見かけ上の円の大きさは子供の頭位でしょうか。位置は頭上数十メートル上空に感じられました。

UFOの姿を見て受けた印象は、畏敬の念と壮厳さでした。ヤッホーという気分ではなかった事が自分でも以外でした。その後直接双眼鏡でUFOの船体を大写しに見たり、母船から子機が分かれる所などを目撃して、UFOの存在を疑う事はできなくなりました。

又オーラ透視なども、人間にはオーラを見る能力があるのだと信じて取り組みましたら、すぐにオーラが見えるようになりしました。いつでも能力は信じる事から開く事を実感しました。常にプラス思考の波動を保って、宇宙哲学を実生活に生かしてゆきたいと思っております。

夜明けは足元から来る

田中太朗

近年、宇宙問題に対する関心が、再び高まりつつあると書き出せば、この

ところ、深夜テレビでUFOがよくとりあげられていたりする画面を思い浮かべ、うらやましい方もいる。UFO問題は、この現実を見てもわかる通り、我が国においては、本当にマスコミのペースで情報がコントロールされている。

そのほとんどは、いかにも本場の出来事のように、UFOに少しでも関心のある人は、血わき肉おどる内容ではあるが、スペースブラザーズは、実は、TVが流すような内容をわれわれに示そうとしているのではなく、あくまでも、個々が、自からの中にある「本当の自分」に気づいてもらうために飛来しているのである。宇宙人の死体やUFOの乗り方々を追う前に、私たちは、彼らの見守る中で、やりとげなければならぬことがあるのだ。それは、世紀末を、絶大なる自

信をもつて乗りこえ、さらに精神的進歩をなすとげることにある。

しかしながら、我々の心というものは、ややもすると自分自身の向上々というテーマをかたくるしいもの、たいへんなものだと思う。好気心をくすぐる「情報」にひかれてゆくことが多いものである。そして、最後には、すべてのことを評論し、「よし」「わるい」というレッテルをはることに夢中になり、何もなしとげずに一生を終ることになりかねない。

心を活かす者と殺すものちがいがここにある。UFOが何か云々言う前に、まず、宇宙に心を開き、そこに生命を感じとる作業を実行することだ。「行動する者」であるかぎり、あなたはかならず、スペースブラザーズの心を知ることができる。

失敗は成功の もと



岸本 悟

私達は失敗やトラブルなど、マイナスの出来事が起こると悲観したりします。しかし、悲観している状態は自分の傷をなめているだけで何も物事の進展にはつながらないと思います。本当に失敗やトラブルを繰り返さない人生をすごす為には、失敗から学ぶ必要が出てきます。なぜなら、失敗やトラブルが起こった場合、それにかかわった人自身に何らかの原因が(特にマイナスの原因)あったからです。そして、その原因が残っている限り、同様の失敗やトラブルがいつか必ず起こってきます。

そこで、失敗から学ぶという事ですが、まず、失敗したら、客観的に自分自身と周りの状況を観察します。そして、失敗した要因をそこから見つけ出し、そしてそれをなくするにはどうしたら良いのかを考えます。そしてその解答が得られれば、これで私は一歩前進したのだと強くイメージし、その失敗に感謝します。そしてその後は学んだものだけを記憶し失敗の事例は極力忘れるようにします。このようにして、失敗すればする程、強烈な成功の信念を持ち、これで学び、一歩ずつ前進しているのだという信念を持ち続けます。

という事で、とにかく、実際はどのような事柄からでも学び取る事ができると思うのですが、失敗から学ぶという事にしぼって書いてみました。

それでは、アダムスキー氏と大成功された方々の言葉を書いて終わりとします。「難局に直面したとき『自分は恵まれた男だ』と考える。決して悲観したり、

あきらめたりしてはならない。」

舟橋正夫

「やる価値があると思つた事は実行してみる。たとえ結果が思わしくなかったとしても何も悪いよりはいい。なぜなら、仮りに失敗しても、その過程ではいろいろなノウハウや教訓が蓄積できる。蓄積は何かをやるうというとき必ず生きてくるからだ。やらないで後悔するより、やって後悔しろ。」

荒木義朗

「成功は次の成功の呼び水とせよ。失敗は次の成功への足がかりとせよ。」

土光敏夫

「目の前に起こる事実に対して明るい面を見るか、暗い面を見るかで、人間の成長は変わってくる。暗い面ばかりを悲観的に見ると、心が萎縮してしまつて、知恵や勇気も出にくくなる。だから、発想の仕方、ものの見方、考え方は明るく見る方が得。結果に大きな差が出てくるからだ。」

松下幸之助

以上、坂上肇著、「人生「プラス思考」で生きてみないか」より抜粋

生活のあらゆる分野の過去と現在の教えに関するわれわれの思考の習慣は、この削り取らねばならない荒いキズのようなものです。なかには除くのが困難な部分もあるでしょうが、目的を持った決意は望ましい結果をもたらすでしょう。するとやがて光沢、すなわち最初は容易でも楽しくもない新しい習慣が確立されることとなります。そしてこのすべてがなしとげられるとき、人間として知られる

形態を通じて神の栄光が現れるのです。

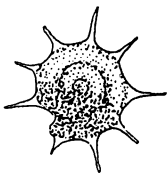
「生命の科学」第一課より抜粋

あなたがたは大地の暗黒の中に横たわっている小さな種子のようなものです。満開の花になるのに、あせってはなりません。「自己の意識」という天空の中に高く輝く栄光の炎にむかって、あまり急ぎすぎないように、コンスタントな前進を続けながら成長してください。信念・忍耐・寛容・愛・同情など、これらはあなたがたの生命を後になって支えてくれる根なのです。

肉体人間の利己的な想念をひとつずつ

あなたの意識から消し去らねばなりません。しかしそうするためには、ひどい苦痛が生じます。自分でそのようにしているのです。けれども一方では、責め苦にさいなまれるエゴが火花となって飛び散ることにより、あなたがたの心は自由と再生の新しい誕生に加わるようになります。エゴを支配する道を行くのは容易ではないと私は言いましたが、しかしこれはたとえようもなく美しいものなのです。人間の内部に苦痛が発生すれば、それは新生という局面をも生じさせます。したがって、コンスタントな活動を行って前進しなさい。そしてあなたがた「宇宙の理解」という黄金の門を通りたければ、勇気と、そして特に愛を保持たねばならぬことを覚えておきなさい。

「アダムスキー論説集」エゴを支配する道より抜粋



戸隠高原の旅

元井 武士

支部代表が清水正さんになってからは二回目の支部研修旅行が、秋の紅葉も美しい十月の第二週に楽しい雰囲気の中で行なわれました。

前回（第一回目）は夏の真鶴半島でしたが、今回は二泊三日で長野県戸隠高原への旅です。十月八日の夕刻、東京本部月例会終了直後に、上野の文化会館ロビーに集合したメンバーは、代表の清水さん、新宿の有坂さん、府中の石田さん、渋谷の藤村さん、私の計五名でした。

五人は早速、清水さんの車に乗り込み、今回もう一人の参加者である、神奈川県南足柄市の井川さんと中央高速の初狩パーキングエリアで合流するために上野を出発しました。途中は先程の月例会の話題で車中はなかなかぎやかでした。

九時少し過ぎ合流地点に着き、私は井川さんの車に乗り換え、二台は夜の高速を一路戸隠のペンション村へ向けてひたすら走りました。今回泊るペンションは有坂さんの友人の方が経営しているペンションで、戸隠でも草分け的な存在だそうです。やつのことでペンションに着いた時はもう午前一時になっていました。ウーム！思ったより遠い！星空がとても美しい所です。もう今晚は遅いので全員すぐに休むことにしました。

翌朝、ペンションのおいしい朝食をさすがにいい気分の中でいただき、いよいよ一行は戸隠奥社へ向けて出発です。二台の車を駐車場へ止めて、木の葉の色づく幅七、八メートル程のきれいな参道を六人は歩いてゆきます。参道の距離は一キロ以上もあり、前方が見えないくらい

です。「随神門」という所より先は、これましたばらしい杉並木が続いています。心が澄みきってききました。とても良い所です。皆の顔もさわやかです。

この後一行は、戸隠森林植物園を散歩しました。園内はあまりにも静かで、清水さんは皆んなに、自然がどのような音を発しているのか聞いてみようかと提案され、皆んなで耳を澄ませて、小鳥の声、風の音などに聞き入りました。

夕刻、ペンションに帰り、夕食の時間までの間、恒例の楽しいテレビシューゲームに興じました。今回の出し物は、記憶力ゲーム、これは、清水さんが、昼間、私たちが見て回ったものの中から、あるものの形や色、数などを出題するもので、これは、皆、かなり良い成績です。

次に念力ゲーム。マッチ箱に刺した針の上の紙片を念力で動かすものです。何人かは良く回転しています。真剣な顔になっていきます。

このあと、一人一人色カードに指で触れ、色あてをすると同時に、その時の感触を色ごとに述べていきます。ある色では、だいぶ共通点があります。

夕食後、全員が車でUFO観測に出かけましたが、空はあいにく曇り空で景も良く見えません。二時間位で帰ってきてから、一階の食堂ルームのこたつに入りワインで乾杯です。

昔からの有坂さんを良く御存知のペンションの奥さんは、今回の有坂さんの変わりように（もちろん素晴らしい人になったこと）驚いているらしく、私たちが何をしているグループなのか知りたがって有坂さんに尋ねていました。

有坂さんは「UFOコンタクトイ」を奥さんに紹介し、その後、ペンションのお客さんの目に留まる所へ置いてくれることになったのでした。

早いもので、最終日がやって来ました。親切だったペンションの御主人、奥さんとお別れし、今日は黒姫山のふもとの黒姫高原の方までドライブし、大草原の秋を楽しみました。

帰りは、秋の連休とあって道路も渋滞気味でしたが、お陰様で楽しく有意義な三日間でした。しかし、GAPの仲間たちとの旅行はいつでも良いものだと思います。



随神門の杉並木

アダムスキー全集を読んで

米永 紀子

アダムスキー全集が家に届けられて、この、かなり内容の濃そうな本を前にして二週間程手がつけられませんでした。それは、内心「重たい」という事が感じられるからでした。

リラックスして興味半分で読み進んでいくうちに、様々に変化する自分の姿が写し出されて行きます。

この本を読んで自分なりに消化するのはとても長い道です。時として、一行も頭に入らず、同じ頁を何度もながめたりまた、時として今まで見えなかったものがあと一息で見えそうな気分になったり……と、目は活字を追いますが、実は自分との対面であったような気がします。

そう、あれはまだ乳児だった頃、「天井から下がるおもちゃ」が大好きでした。何回もグルグル廻るおもちゃ。ネジが切れると泣き出したものです。そして、夢の中では自由に動け廻れるのに目が覚めたとたん身動きできないという状態の私はよく泣いて、さぞや母親を困らせたことでしょう。

ある日、母親が握りしめた手を開いてタオルで拭ってくれたところ、手のひらに開放感がありました。それからは何度か手のひらを開いていたものです。「あら、いやだ。この子は珍らしい子だ。手を開いている」という母の声を覚えていません。

少学生の頃、社会科の教科書に小さな写真があり、強い印象を受けました。場所は「熊本県の阿蘇山へ向う国道」その二十年后、偶然にその場所へ行きました。もう一度あります。中学の頃何故かヨ

ロツパに強い印象を感じ、特にパリにある「凱旋門」と「エッフェル塔」が目につきて離れません。その二十数年後、私はパリに居て、凱旋門近くのアパートに暮らしてました。学校に通う電車から毎日エッフェル塔を眺めていました。

これは予知だったのでしょうか。何かのイメージがあったからそこへ向かったのでしょうか。両方考えられると思います。だとしたら、なるべく良い方向へなるべく素晴らしいイメージを持った方がいいではありませんか。

パリに暮らしていた最初の頃、言葉もわからず困りました。(日本ではほとんどフランス語をやっていたので)「えらい事になった!」と。しかし、一カ月間耳を大きく心を傾けて先生の言うことを、ただ、ただ聞く毎日でした。そのうち、言葉ではなく会話はハートとハートだという事に気付いた頃、ことはが少しずつ理解できるようになりました。

私たちは日本で生まれ育ったので、日本語は自然に耳に入ります。聞く努力をしなくてもいいわけです。ですから表面的に言葉だけを受けとり、心を傾けることをしません。この心を傾けるということが「オープンマインド」に通じるのではないかと思えます。

子供の頃のように何の先入感もなく、クリーンな気持で物事を受け入れる事ができた素晴らしい事ですね。

しかし、お手本となるべき先生が必要です。今まで外に探していたものが、実は自分にも内在する……なんと嬉しい事でしょう。

そういえば、時々誰かに助けられていることを感じます。全身がふわっと暖かいフィーリングに包まれると、やさしい気分になります。自分の中に光があると感じる事ができればHAPPYな気分になります。

しかし、心を開いている分、他人からの攻撃は痛いのです。秋山氏曰く「ありがとうございますと心の中で言ってお返しを返してあげられたら自分を誉める事にします」。

嫌な気分になったら空を見上げて深呼吸。落ち込んだ時の逃げ場に本を開いたとしても理解できません。その原因を把握しないと駄目ですね。(自分の経験)しかし、本を開くと視界が変わります。

最後に、この本を読むきっかけとなりました久保田先生そしてGAPに入るきっかけとなりました友人たち、そしてGAPの仲間たち皆さんに感謝します。ありがとうございます。



宇宙哲学から 学んだ事 井川博文

アダムスキーについて初めて知ったのは今から14年ぐらい前であったと思います。宇宙哲学の本が新聞に案内されたのを見つけて、早速本屋さん注文しましたのを見ておられます。

宇宙哲学の本を手に入れて、内容を知ってから私の人生が180度変化してきました。辛い思い、楽しい事もありました。しかし、それを体験し乗り越える事により、力となり、知恵となっていました。今考えてみますと大変ラッキーであったと思っております。

ある日私が会社で、ある出来事で気分が落ち込んでいたら、何か不思議な温かい、激励のようなフィーリングを感じた事がありました。その時、私は大変うれしくなった自分を記憶しています。

又、ある日、会社で食事をしていると、突然自分が宇宙空間にいるんだという、かなりリアルな広大なフィーリングを感じた事がありました。これも面白い経験です。

ここでUFOの目撃体験をお話しした

いと思えます。1981年8月31日の夕方私は自宅の物干し場に双眼鏡を持って上がりました。西の空にたぶん木星と金星が強く輝いているのを見て、双眼鏡で見ようと思うと、その少し左側にカラスみたいにひらひらしている物が見えました。最初カラスが飛んでいるかと思ったんですが、変な動きをしているので、双眼鏡でのぞくと、なんと楕円状の黒い物体がひらひら木の葉のように飛んでいるのです。

私はびっくりして、未然としてしまいました。私は遂にUFOをこの目で見たんだという驚きと感動に浸っていました。そのUFOは除々に私の方に近づいてきて、私の頭上に向かってきたのです。この間私はずっと双眼鏡で観察しつづけてました。頭上に来た時そのUFOの形は円型タイプであることがわかりました。色は黒です。そのUFOは頭上に来た時、突然上昇していききました。そして私の目前からその偉大な姿を消したのです。

この体験以外にもUFOらしき光体を

見ていますが、この目撃がもっともすごい体験でした。

最近、私が少し進歩したと思われる出来事をお話ししましょう。会社のOさんという方がある日、井川さん少し太ったんじゃないかと思いませんかときりに私に言うんです。(うるさいくらいに)そこで、少し食べ過ぎていたなと感じていた私は食事の量を気をつけて、かつ甘い物は控えるよう決めたのです。それを実行していると、与えられる食事に対して不平不満が消えていくのがわかりました。又、感謝の気持ちが生まれてきました。食事もおいしく食べられるようになったのです。今までマインドはぜいたくをしてきたのです。

日本人は食事をする前に手を合わせて食べられる事に対して感謝の念を表わしたわけです。これは、宇宙的な意味が込められていたのが今やっとわかったのです。

又、これはテレパシー能力拡張になるような気がします。心を静めるのが楽に

なった気がしました。食事、環境等は与えられたものです。まずそれに対して素直に感謝できるようになったのです。まだいろいろ問題がありますが、これを大切にして次のSTEPに進んでいきたいと思えます。つまり良い出来事、良い環境を(与えられたいなら)良い感情を持って行動しつづけ与えることである。と思うようになったのです。これを実行するには、忍耐、信念が必要であることは言うまでもありません。

こんなことがあって以来、あらゆる出来事(辛いこと、楽しいこと)に対してまず感謝しようと思っております。辛いことに対して感謝するのは難しいですが、とにかくこれができるようになること、さうと思えます。これからもコスミック人間の表現をめざして頑張っていくたいと思えます。



今日も雨かな



藤村 雅夫

横浜支部報第一号発行に当たりおめでとうございます。だれに“何にか”“まだ支部報の名前は知らないのです”が、二号、三号へと期待と希望を持ち、またこの支部報を読んで下さる方々を思い巡らし、さて何を書こうかと今思っています。代表の清水正さんより、初刊日から書いてねと言われ一週間が過ぎました。今日こそは書かなければと思いながら今日は雨でした。



空に円い銀白色の物体。雲でもない飛行機でもない鳥でもない気球でもない。スーパーマン！ コンマ何秒の間に雲に隠れてしまった物体を初めて見ることが出来たのは89年日本GAP企画第12回海外研修旅行で、コンタクト地モハービ砂漠へ行く途中のバスの中からでした。十数年も前になりますが、夜ゆっくりと真つづくに動く人工衛星は見たことがありますか？

コンタクト地モハービ砂漠からの帰り、太陽の横に細長い雲が有り、日が傾くにしたがい空は雲も少なくなり傾いた太陽はまぶしく光り車内から容易に太陽は見えます。目が慣れると太陽の輪郭が見えるようになり、その右にちっちゃな円い雲だけ見えていました。ディスプレイランド近くのレストランへ着くまで数時間動きはほとんど変わりません。

レストランに着きバスを降り、また太陽の右下に円い白い物体が見えます。数人で見ていましたら白い線が飛行機雲のように、またモールス信号のようにすつと出たは消え三、四回位だったかみんな歓声をあげ見上げていました。とその時、右の空に黒い物体がジグザクに下に向って動くのが見えたので誰かに教えようと「ねえそこ」と目をそらせたらもう見えなくなっていました。

モールス信号だったら……H……O……S……HOS (H O S E A) ヘプライの予言者ホセアになるのだが、ただこれはモールス信号ABC順に上からそれらしき記号を並べたのですが、SOHだとSOH||SO (そのとおりで) となります。今回は予言的なこと資料を揃えて書こうかと思っています。

川崎から横浜へと月例会場が変わる時に横浜へ一番乗りだと思ってきましたがあれもまだ来ません。一時も過ぎひよっとして川崎かなと思いい川崎の会場へ行くこと来月から横浜だという雨の降る日でした。



Uコンは92号SPRING 86年から現在に至っています。UFOCON TAC TEEの書店委託販売を106号より足立区西新井の江文堂と渡辺書店でさせていただきます。最初十部から初め、江文堂ヘッドキンドッキンしながら書店に

アプローチ。その間一〜二分なのですが長かったこととありえず五部からと、五部を置かせていただきあと五部その時はどうしようと思っていました。今考えるとまたとないチャンス。書店委託を初めようと思っていた時いくつかの書店の雰囲気を見て来たので西新井駅近くの渡辺書店へあと五部を卸させていただくようにアプローチする。最初の江文堂よりいくらか落ち着いているがドキドキ。十部全部二書店へ置かせていただくことが出来てさわやかな気持ちの良い気持ちでいっぱいでした。

次のUコン107号発行まで一ヶ月という期間もあり二書店では二回目の107号の納品と同時に106号の精算までがきかきでなく書店への立寄りが出来ませんでした。結果は祈る気持ちを通じたのか、江文堂一部売れ四部引き取り。渡辺書店一部売れ四部引き取り。江文堂ではこの手の本はあまり読まれない。今回(107号)出なかつたらちよつとやめてほしいようなことを言われました。

それにしても両書店一部づつだが買っていてくれたのか、うーんもしかして……と思いがらうきと次はもつと売れるだろうと、107号の出ている間はTV等で頻りにUFO等の番組も多くなりおかげさまで八部売れ二部引き取り、引き取り分は友人へ読んでねと渡す。108号は両書店へ行くこと、んー、もうないんじゃないと完売。江文堂で109号十部置いてほしいとGOのサイン。渡辺書店もほかの書店にもアプローチしたのだがなかなかうまくいかず、十部

「そんなに売れやしないわよ」と置かせていただく。よろしくお願い致します。
書店委託販売は最初のアプローチをクリアすれば次からは大丈夫。あなたも少しの勇気と限りなる時間と大いなる希望を持つてはじめませんか。



この前、自動販売機でビールを買ったら二本出ていた。さいわい銘柄が違っていたので、二日目ビール瓶をふつても気が抜ける様子もないのを前日確かめていたので栓を抜き、ひよっとして明日はどうなるか分からないと思いつつ飲み。何か入っているような：。同じ銘柄を買って来て飲む。こっちの方はあおるように飲むためか味が変わらない。結局二本飲んでしまうのだが、同じ物を味が違うように思ったのは初めてでした。

前も今もですが、アダムスキー全集を読むのに時間がかり、ある日目を閉じもつと早く読めるもつと早く読めると自分に言い聞かせ、時間を見ると読んでいるページ数が多いのに気付いたことがあります。お腹がすけば自分で口に運ばなければならぬのですね。

清水さんより二週間以内に書いてねと言われ二週間の今日、いろいろと御迷惑をかけます。これからもよろしくお願い致します。今日も雨かな。

みずがめ座。ただ今恋人募集集中。

仕事は遊びのように 遊びは仕事のように

山木 益巳

この言葉を述べたのは、確か、歌手の加藤登喜子さんだったと思う。「仕事は遊びのように：。」などと言うとなんだか誤解を受けそうだが、要するに「遊びを持って毎日の仕事を行ないたい」とあるいは、仕事の中に楽しい要素を見出せようということだろう。

考えてみるまでもなく、我々は、日常生活のはとんどの時間を仕事に費やさねばならない。それならば、日々の仕事を楽しい気持で行なうべきであることに気づくのは賢明だろう。そうでなければ毎日が重荷になるだけだろう。

仕事先で仕事をしていると、お客さんに、「大変な仕事ですね」「職業病になりませんか？」などと言われることがあるが、そんな時は、「自分で選んだ仕事ですから」と言うことにしている。大底のお客さんはキョトンとしてしまう。自分の人生を開拓してゆくのは、他者ではなく自分自身である。自分の人生は自分の想念力と行動によるのだから。だから毎日の責務を喜びをもって果たすべきであろう。

「自分に果たすべき仕事がある事をまず喜びなさい。あなたがイライラさせる力を加えない限り、どんなつまらなそうな仕事にも価値があります」

G・アダムスキー著 テレバシー
以前、ある電気メーカーに勤務していた時、組立現場を実習した事があったが、単調な作業もあれば、なかなかおもしろい作業もあり、様々なものだった。現場を実習して痛感したことは、どのような仕事であろうと、ひとつの作業が抜けてしまつては、全ての作業が成立しなくな

ってしまうということだった。たとえば、ネジ一本が欠けているだけでもその製品は不完全で、使いものにならなくなってしまうのである。

どんなにすぐれた設計のもとに製作されるものであろうと、その製作工程が不完全であるなら、それを生かすことはできないのである。即ち、全ての工程は一体なのであり、「最高の技術は最低の技術と等しい」ということができるだろう。ここでとっておきの話を書いてみよう。

ソロモン王の神殿が完成した時、その工事で最も功勞のあったものを王の隣席に座らせる旨を表明した時の事だった。ひとりの鍛冶工が汚い仕事着のまま現われて、自から進んで王の隣席に座ったのだった。

不満の声を上げる技術者に向かって、彼は次のような問いを発したのだった。「あなた方のコテやコンパスは一体誰がつくったのか？ そのような道具類がなく、あなた方はこの神殿をつくることのできたのか？」

人間の能力は全て等しいということをややというほど思い知らされる。なんと痛快な問いではないか！ そのように考えてみると、我々は自然に感謝の心がわいてくるのではあるまいか？ こうしてこの文章を書く為に使用しているペンも紙も他者のつくりだしたものである。そう思うと、それをつくりだした人に感謝！ 感謝！ 「私が行なうのではなく、父が私を通して行ない給うのだ」こう思うことが四六時中できたなら、なんとスバラシイ事ではないか！

UFO体験 とGAP

青木 雅孝

私は、小さい頃から理科の授業が好きで、小学校高学年の頃から、割と科学的な話題に興味を持ち始め、その手の子供向けの雑誌類を読んだり、SFにこつたりしていました。その頃、ちょうどアポロ11号の月面着陸などという話題がありまして、自分も何か科学に関連した仕事につきたいなどと漠然と考えたりしていました。中学生になってからは割と専門的な科学の内容を一般にも分かり易く解説した本などをよく読むようになりました。

最初のUFO騒ぎ

中学一年の時、何月かははっきり覚えていませんが、学校の朝の掃除の時間以外の庭掃除の担当のものが十数人で校庭上空を黒い円型の物体が飛行していくのを目撃して騒ぎになった事があります。

私は部屋の担当でしたので見るチャンスはなかったのですが、皆の話を聞くと異口同音に飛行方向や形状などはっきりいっているので、確かにそういう物体を見たのだなと思いましたが、UFOというものが本当にあるのかなという気持ちの方が強い印象でした。

その後も一、二ヶ月もたない内にまた同じ状況で目撃事件があったので、UFOというものに興味をひかれるようになって来ました。

人生を決めた本との出会い

中学二年の三学期も終わろうとする一

九七二年三月二十二日、近くの本屋に行った時、奇妙な内容の本を手に入りました。清家新一著「宇宙の四次元世界」とあります。最初は天文学の解説書かと思ったのですが、パラパラとめくると、UFOのアップの写真やら、理論的に解析した数式の行列や、UFOに塔上した人の話、イギリスのサール氏が実験機をつくって飛ばしている話など驚異的内容です。

早速買って家で読み始め、その日の内に読みきってしまいました。とにかく各太陽系に人が住んでいて、それが地球をめざしてやって来ている事。彼らの乗物が地球でもつくられる可能性のある事など、私にとって新しい世界が開かれる思いがして、その日は興奮したまま寝付られませんでした。

その翌日、本屋である本を見つけました。その刊末にいろいろの研究団体の紹介があり、日本GAPという団体がある事を知りました。私はすぐに入会案内を取り寄せ、即入会しました。

GAPは当時機関誌がニューズレターでした。ニューズレターにアダムスキーの体験を書いた「同乗記」の一訳が載っており、「アッ! これだ!」「宇宙の四次元世界」で紹介されていたアダムスキーの体験は!と夢中になって読みました。

もうこうなると早く続きを読みたいし、他にもUFO関係の本はないかと捜し回り、当時、高文社から出版されていたUFOシリーズの中に今の「第二惑星からの地球訪問者」のものである「空飛ぶ円盤実見記」「空飛ぶ円盤同乗記」の二冊

その他にも「空飛ぶ円盤の真相」「空飛ぶ円盤とアダムスキー」等アダムスキー関係の本が多数あるので一括して取り寄せました。

「宇宙哲学」「生命の科学」「テレビシー」と短期間の内に読破してしまい、このアダムスキーの伝える内容の真実性をハダで実感し、新しい世界観の展開に夢中になっていました。こうなるに興味はあらゆる方向に展開し、もともと科学好きだった私はUFOや超能力関係の本はもとより、相対論や量子力学、天文学宇宙関係の本などかたっぱしから読みあさるようになり、本の山をつくってしまいました。

UFOの目撃

中学三年のはじめの頃、アダムスキーの本を読んで興奮さめやらぬ六月十九日の夜九時十分頃、私は勉教部屋でふと手を休めて窓の外を見た時に、窓の狭い視界の上方より赤い光点が右下に移動していくのが見えました。一瞬でしたので流星かと思いましたが、その光跡が普通ではなく、ぐにやぐにやと複雑な動きをして消えていったのです。よく流星は見ましたが普通はまっすぐ飛んで行きます。やはりこれは私にとって初めてのUFO目撃と考えられます。

一九七二年八月一日私は、はつきりUFOだといえるものを目撃しました。その前日、すぐなりに住む同級生が夜中にベランダからUFOが見えて、それは真赤に燃える円盤状で南方から接近し

て、真上に来ると急ターンして視界から消えたといえます。ほんの一瞬の出来事で、向かって来たのでびっくりしたと言っていました。しばらくまた来るかと待っていました。とうとう来なかったというのです。

それでは私も見てやろうと思い、ライトに双眼鏡に望遠鏡まで用意して、その日は早目に寝て、夜中の二時頃そこそと起きたして、二階の屋根まで登り、三時二十分頃から星空を眺め回していました。「円盤よ出てこい」とか考えながらライトで空を照らしたり、望遠鏡や双眼鏡で星を見たりしていました。

三時五十五分頃に真上の星を望遠鏡でのぞき込んで見ていると、オレンジ色に輝いている物体が飛行しているのを見つけてきました。それは北北東に向かって進んでいました。人工衛星のようにも思えましたが、もしかしたら円盤ではどライトを点滅させたり、「円盤なら証拠となるものを見せてくれ」と想念を送ってみると、大山と鷹取山の間に隔れる直前の約五秒間、想念に答えるように、ラセン飛行をして再び直線飛行にもどり視界から消えていきました。

その間二、三分はあったと思います。ああ行ってしまったと思う間もなく、今度はすぐ右手に見える善波峠のトンネルの上空百メートルもない所に、点滅する赤いランプのある飛行体を見つけてきました。それは山影から回り込んで来たよう、次第に山を少し下るような形に直線に松田方面に向かって来ました。

初めは、いつも昼でも夜でも自衛隊の

大型のツインロータータイプのヘリコプターが毎日のように通過するコースになっていましたので、またヘリコプターかなと思っていたのですが、もしかしてさっきのUFOではと思い、再び飛行体めがけてライトを点滅させてみました。

少し進んだ所で気がついたのがコースを変えて私の方へ向かってきます。見る限りではヘリコプターとあまり変わらない速度なのですが、近づくにつれておかしな点に気がつきました。まったく飛行中の音がしない事、なめらかですべるよ

うに飛行する事。二等辺三角形の形に並んだランプしか見えない事その内の一つ右下のランプの点滅を一秒一回位でしている事などです。これはもうまちがいない円盤だと思い、胸をドキドキさせて近づくの待っていました。

それは、ゆっくりと近づき、私が登っている屋根のハリの延長上のちょうど40度位に見上げる位地まで来ると、ピタッと停止しました。すぐ手が届きそうな10m位しか離れていない場所まで来たのです。

そこまで近づいたのに、おかしな事にその物体はランプしか見えません。真黒な船体なのか光を吸収するのでしょうか思えません。持っていたライトは、ビームが20〜30m先まで延びるのが見えるのですが、その船体に向けてとビームが途中で見えなくなってしまう、その形状がまったく確認できません。

あまりの驚きとうれしさに声も出せずライトを点滅させたり、手を振ってみたりして、窓を開けてくれるのを待ったのですが、いつこうに開ける様子もなく、何かじっと見られている感じがしひししと感じられました。隣の友人をたたく起こして見せたかったのですが、それもできません。

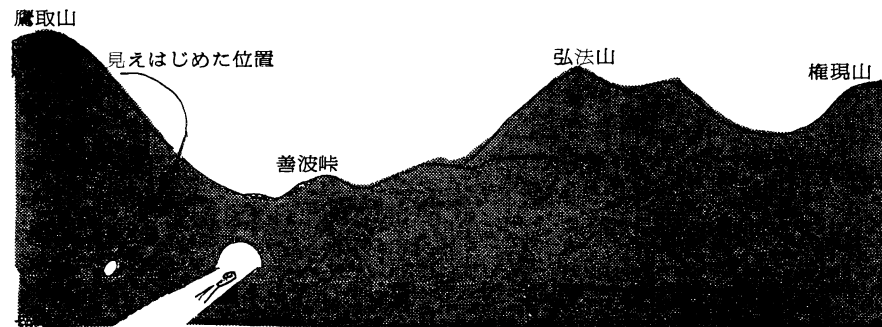
一、二分停止した後、急に旋回して平塚方面に向かって前と同じゆっくりしたペースで飛行して行きました。その時、星をさえぎっていきましたので、確かにランプ三つだけではなく、その回りに円盤が球形かわかりませんが、船体がある

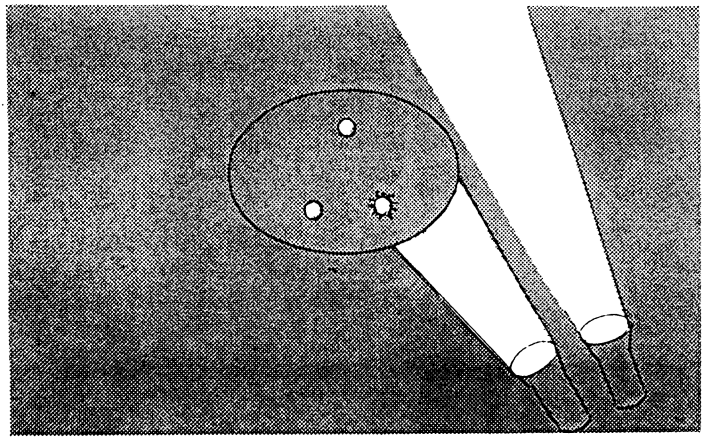
らしい事はわかりました。それはゆっくりと平塚の上空に行くこと街灯りにかき消されるように見えなくなりました。今でもこの光景は目に浮かぶようです。

八月の目撃以来、自分一人か、隣の友人と毎日曜の夜明け頃に観測するようになったのですが、なかなかはっきりUFOといえる例はありませんで、夜間の飛行コースとは考えられない場所を飛行する光体は何度も見ているのですが、直線に飛行するのみであり、自衛隊のヘリコプターのライトの配置と見わけがつかないのでなんともいえません。そうこうしている内に十一月下旬となり、再びはつきりとUFOを目撃する事となりました。

一九七二年十一月二十八日午後七時二十分頃私は友人と塾へ行くため、自宅のすぐ横の坂道を登っている時でした。そこは坂を上がる程幅が狭くなる露路で正面上に着付の学校があり、そこを少し左に折れて上がって行くこと少し広い通りに出るような場所です。

天気がいよいよ星がきれいにまたいたっていました。坂を二人で登りながら、なにげなく星空をみようと、何かさえぎられるように星の一つがしばらく消えてまた現れました疑問に思いよく見ると、かなりの低空に大きな真黒な物体があるらしく、その両端の位置あたりに小さな赤い光源が光っています。それは正面の学校の上をゆっくり右から左へと移動しています。人が早足に歩く程度のスピードしかありませんが、その浮かんでいる高さは家から10mもない程で、赤い光の間隔も5〜6m程度ではないかと思





まったく飛行中の音は聞こえませんでした。皆さんよく御存知の「UFOと宇宙」という雑誌、創刊当時は「コスモ」でしたが、その創刊号を手にした時はかなり興奮しまして、無中になって読んだものです。その中に目撃報告を手紙で出してくれという記事があったので、早速私はこれまで目撃した内容のいくつかをレポートにして送付しました。それが「コスモ」二号に載っていますので、読まれた方もあるかと思えます。

気の合う仲間との出会い

私は高校生になってもあい変わらず、学校にもUFO関係の本を持ち込んで、休み時間などに読んでいたり、UFOを目撃した時の話をしたりしていました。二年生になると、クラス替えになり、かなりのメンバーが入れ替えになります。その中にちょっと目を引く人物が一人いました。気になるので声をかけました。彼は金井君といい平塚市に住んでいます。いろいろな事情を話し合い、すぐに意気投合して、UFOや超能力の話に話が咲きました。彼はUFOの目撃はないのですが、その方面に非常に興味があり、相対論も中学の時に勉強し、数学的な素養がかなりあるようでした。

早速行動を起こそうと、クラブ活動にUFOをやるという事になり、先生に言ったのですが、新しい部はつくれないというので、内容的に近い物理部に入部して、やろうという事になりました。

金井君は一年生の時も物理部であり、

他のメンバーもわりとその方面に興味を持っていたので、研究テーマもわりとずんなりとUFOが一つに入りました。他にもテーマがいくつかがあったのですが、活動していく内に主力はUFOになり、六、七割を占めるようになりました。

文化祭のUFO展

その年、一九七四年九月には高校では文化祭を開催する予定になっていました。それで物理部としても研究発表をする事となり、何をするか計画をたてることになりました。

研究テーマとしてUFOがかなりメインになっていた事もあり、UFO展として資料をそろえて展示し、できれば、写真の展示の他に映画もできたらと考えていました。そこで、それなりに展示できるように準備を進めていました。

GAPニューズレターをふと見ると、久保田先生が時々各地で講演されているのを知り、これだと思いました。

幸い、高校には視聴覚室があり、スライドや映画を上映したり、英語のL1教室のように使える部屋になっていて、講演していただくにはもってこいの場所です。早速、外部から人を呼んで講演してもよいように先生や文化祭の実行委員に

働きかけO.K.をとり、久保田先生に連絡し、スライドや映画の上映を含めたUFO講演をしていただく事となりました。当日、九月二十八日は、資料の展示などは物理実験室で行ない、久保田先生の講演は午後三時より行なわれました。

何しろ、物理部は小人数でしたので、仲々宣伝がうまくゆきとどかず、人が集まるか心配でした。又、機械の操作に不慣れなものが多く、マイクのセッティングや16mm映画の上映などもトラブルがあったりして、いろんな人に応援を頼んでようやく始められました。

久保田先生ははじめスライドを使用し一枚ずつ写してはそれについていろいろと解説をされるという方式をとり、講演を始められました。私がスライドの交換を担当していたのですが、始めた時は十数人しか集まっていなくて、先生に申し訳が無いなど思っていました。しかし、しばらくしていると、ぼつぼつ人が入りはじめて、映画を上映し始めた頃には座席にはすわりきれず、立見の人まで出ていました。

久保田先生のおかげで、内容的にも充実し、UFOに興味を持っているが、あまり知らないといった人達にもかなりの刺激になったと思っております。

大学祭などでは講演会を開くのはそうめずらしくもないのですが、当時、高校の文化祭でこのようなUFOの講演会を開くのは画期的だったらしく、後でもかなり話題になりました。

(以下次号)

ます。それだけ低い場所であれば街灯や看板の灯りで輪郭位はわかってよきさうなものです。まったくわかりません。これは、八月十五日に目撃したUFOと同種のものだと思い、もっとよく見てやろうと、そろそろ視界からはずれそうだったので、急いで坂を上がり広い道に出たのですが、もうすでに何処に行ったのかわからなくなっていました。いや、もしかしたら、まだすぐそばに居たのかも知れません。なにしろ、両サイドのライトが消えて、動かずにいればまったく確認しようがないからです。もちろんま

自然の循環

村田周一

アダムスキーが自然を観察した時にムダなもの一つもなく華仕し合っていることに気づいています。そしてそれらは大きなサークルとなつてたよりあつてい

ることであります。我々人類でさえこの万物の中にあつては特別な存在ではなく、万物の一部なのであつて助けあう一翼をになつています。そして、そのサークルの中では生命のリレーが行なわれて次々と役割があつてパトンを渡してい

きます。人間には大自然の中で最高の英知が与えられ自らのサークルを作ること

を許されました。それは物を生産する能力によつて人間の無限の可能性を示めずもであります。しかし、そのサークルの中に持ち込むものはやはり万物の中からのみ許されたものです。大自然に返してやらなければならぬパトンがありそれを放り投げることはのちのちパトンを手にする資格を失うことになりかねません。つまり、生産したものの処理には大自然が簡単に受け入れやすいように変換させて処分することが必要であり、なるべく多くの再資源化をはかる必要があります。

フロンガスは分解されにくいいため、ゆつくりオゾン層まで上昇してそこで紫外線とオゾンに反応分解してオゾン層を破壊するといひます。

大都市のゴミは資源として再利用すべきであり早急に再処理プラントを手がけておかなければなりません。採算に合わなくても人類が自らが万物の一部として責任を問われているのです。

ゴミとの両極の一方は富といえるかも知れません。地球全体での地域差は開いています。貧しい国は森林伐採など自然を切り売りして、富む国は原料を加工してあります。原料が安く製品が高い限り貧富は縮まりません。

富のサークルを考えてみましょう。自然を切り売りしている国は自然を還元する能力を持ちません。しかし富む国は復元にそれほど関心を持たないことに問題があります。ここにサークルを作ってみましょう。いづれ富める国はその国民の努力といえど、他の対象がなければ何も始まらないのです。すべてが相対関係にあることを忘れてはいけません。対象国から得た利益は対象国のおかげで受けた面がありますから、何らかの返しをす

るのがいいのではないのでしょうか。

その返しをし合う関係を愛という観点からみてみましょう。太陽のようにただ与えるだけ、見返りを求めないというのが愛といわれます。しかし、この場合は見返りがあるので一歩前進の前向きな愛を発揮する良い機会です。お互いの関係を必要なものとしてとらえ、尊重し合うこうした関係を発展させ富む国は利益を還元して富の流れを作るべきであると考えます。

貧しいといわれる国が工業化した生産国になる努力がなされていますが、富の流れを作らずに行なうと債務だけが膨大になつてしまいます。今後はそれぞれ与えられた環境を利用して地球全体のビジョンに従つてそこでない特性を生かすべきであり、認めあつて富の流れを確立すべきではないでしょうか。

この考えで日本を見てみましょう。富は大都市に集中、人も集中しています。我々の恐怖に時間と距離の不自由があると思ひますが、それを解き放つ一つの救世主が現われています。リニアモーターカーといわれるものがそれです。リニアはまだ実験段階だと言われますが、

今後の主力輸送機関になることはまちがひありません。

リニアがもたらす革命は予測をはるかに越すと思ひます。つまり、その実用性がハッキリすると、大都市と地方の役割はきわだちます。今東京では人口がドーナツ化して夜の都心は人がいなくなるといふこの現象は全国規模で起こることでしょう。つまり地方が住む場所になり、都市はビジネス、社交、イベントなどの場となる。正確にいえば人口は平らにバランスよく住みわけることになると考えます。

こうなれば日本は精神的な安定と豊かさのバランスをとってきます。富が地方に流れ、地方から都市に流れる。大きな人の流れは新たな文化を造る。

このビジョンを望むことであるなら早く実現するほうがいいです。交通政策をこれまでの概念にとらわれずに改めて遠方への運賃では上限を決めて距離による較差をなくすることはできないものではないでしょうか。

今後の地球で目ざせることはゴミ、富にしてみても片寄つて一ヶ所に置いてはおけないということです。一つのサークルとして循環させるのであります。自然から学ぼう。自然のあらゆるものがよどみなく循環しています。自然を大きく育み平等の社会とする。その中で心の恐怖は少しづつ薄らぎ着実に進歩した惑星のレベルに至る道ができるのではないのでしょうか。



U F O 観測会

このたび日本GAP横浜支部では、月に一回以上、上空に向かってスペース・ブラザーズへの呼び掛けをしようということになりました。

私たちはア哲学を知り、その大切さを理解しています。アダムスキー氏のブラザーズに対する呼び掛けもまた長期に渡って、その忍耐も知っています。このアダムスキー氏の示めした教えと信念と忍耐を実践していこうという気運が高まる中で、U F O 観測会を通してブラザーズの気持ちを知り、一体となって宇宙的な協力をしていこうというものです。

続ける事に意義があると思いますが、どうぞお気軽に御参加下さい。

記

日本GAP横浜支部第一回U F O 観測会

日 時 10月26日 (金) P M 8時～

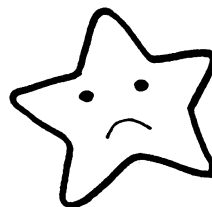
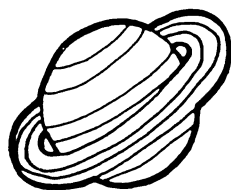
会 場 有栖川記念公園 JR恵比寿駅～地下鉄比日谷線広尾下車
(有栖川公園口地上改札待合) 徒歩10分

会 費 200円

※参加した方には、今後の観測の御案内とU F O 出現報告
を差し上げます。

連絡先 〒181 東京都三鷹市牟礼3-1-20 ☎0422-41-7992

加藤 純一



金星の大気

石田 義雄

現在、金星探査機の報告により金星の表面では摂氏四百度以上、約九十気圧であると発表されています。この値を考察してみます。

惑星の大気が重力で引き止められていて、重力がもしなければ大気はたちまちのうちに宇宙空間に拡散してしまふと現在の物理学では考えられています。惑星の表面より距離が離れると次第に重力は弱まり、その値に比例して大気圧は減少します。しかし大気圧を平均しますと、一定の体積を大気は占めていると考える事ができます。(惑星の重力の影響のある範囲が一定という意味) また、地球の重力を一とすると金星は〇・九一になります。(理科年表—丸善)

金星または地球の表面温度では気体はその種類によらず(酸素、窒素、二酸化炭素等何でも同じ。)次の式が成り立つ事が知られています。地球の空気の温度を平均値として摂氏20度(絶対温度で $P_1 = 293^\circ\text{K}$)。大気圧を $P_1 = 1.013 \times 10^5$ (金星の温度を米国のNASAの発表した温度である四百度(絶対温度で $P_2 = 673^\circ\text{K}$)。大気圧を $P_2 = 9.8 \times 10^5$ とします。仮に地球と金星

の重力をほぼ同じとみなして計算式を書くと
 $P_1 / T_1 = P_2 / T_2$

数値を代入して計算しますと
 $P_2 = (P_1 * T_2) / T_1$
 $= (1 * 673) / 293$
 $= 2.29$ 倍田氏の計算より。

もしこれ以上の大気があれば金星の重力は大気を引き止めておく事ができず、大気は宇宙空間に拡散してしまうのに相違ないのです。実際は重力を地球と同じと仮定したためこの圧力よりも低くなります。

どうしてこのようなありえないデータをNASAは流すのでしょうか。マリナーが送ってきたデータが無かった頃、金星は居住可能でUFO群はそこより飛来すると考えられていました。気候はフロリダ近辺に似ていると言われた事もあります。マリナーが送ってくるデータは本当は摂氏17度だという情報もあります。金星が高温、高気圧であるという情報が流れてより、金星に生命の存在は否定されるようになりましたが、実際はこのような矛盾のあるデータなのです。そして多数のUFOが地球上空を飛び回っている事を考えると他の惑星に知的生命体、地球と同じ人間が住んでいるという事実の隠蔽工作のように思えるのです。また、宇宙船から送られてくる生のデータに直接触れられるのは一部の人間だけだという事です。公表するときにデータに細工をすれば、その権威で皆は信じてしまうのです。

横浜支部紹介

月例会 毎月第三日曜日午後一時〜五時
会場 横浜市技能文化会館
801視聴覚室(703から変更)
JR関内駅、地下鉄伊勢崎長者町駅より共に徒歩三分
会費 五百円

初めに東京月例会における久保田先生による講義テープを聞きます。その後は皆さんの感想や近況などの宇宙的な話し合いで時間が経過します。研究発表もありません。残り少なくなりますがテレパシ—練習をして終了します。参加していただく人が喜んでいただける有意義な時間となるように努力中! 良い提案がありましたら教えて下さい。

旅行 横浜支部では時々研究会やドライブなどをしています。これまで戸隠高原をはじめ真鶴半島、中伊豆、仙台・山形合同支部大会、奥多摩周遊、そして先日は八ヶ岳高原へ行ってきました。

夕食会 月例会終了後はいつも夕食を兼ねて一杯やります。会場は決まっていますが、時には横浜中華街や伊勢崎町へ行ったり昼食や夕食をとっています。第二の月例会ともいうべき大切な時間となっているのもまた事実の横浜支部です。

UFO観測会 十月二十六日より横浜支部では新たにUFO観測会を開催します。UFO観測にともなう報告を支部報とは別に発行する予定です。

編集後記

★昭和六十三年三月から当時こちらは神奈川県支部でしたが、代表を務めさせていただいてから早いもので二年八月月になりました。この間、月例会に参加していた方々、久保田先生、本部役員の皆様には大変お世話いただきました。感謝にたえません。おかげ様で支部報を発行することができました。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

★「夜明けは足元から来る」は田中太郎氏によるものですが、大変重要な示唆があると思います。熟読いただければ幸いです。

★社会的な環境の整備は外的な要因ではありませんが、私たちにおちついた気持ちを起こさせて精神的進歩の基盤となると思います。時間と距離とお金にしばられない。病氣や老後に対する社会のバックアップは人間の恐怖を信念に向かわせる道ではないでしょうか。またそのためのイメージと信念を持つことは意識的に大切に思います。

★UFO体験など原稿をお待ちしています。
日本GAP横浜支部報
〇三三四のの 創刊号
編集発行人 清水 正
発行所 日本GAP横浜支部
〒336 浦和市辻5-9-123
清水ハイツ8号室
☎048(866)7048
一九九〇年十月十二日発行